

第33回 民俗芸能と農村生活を考える会

～新潟県柏崎市の郷土芸能より～

あ や こ ま い

「綾子舞」公演

「民俗芸能と農村生活を考える会」は、日本人の心のふるさとである「農村」に伝わる伝統芸能を鑑賞し、その背景にある地域の暮らしを知ることによって、都市住民の方々と農林漁業・農山漁村の現状を考えることを目的として、平成元年より開催しています。今回（第33回目）は新潟県柏崎市に伝わる「綾子舞」を保存会の皆様をお迎えして、ご紹介いたします。第2回に続き2回目の公演となります。



※高田常陸踊イメージ



※下野常陸踊イメージ

「綾子舞」は国指定重要無形民俗文化財です。柏崎市大字女谷に約500年前から伝わる古典芸能です。綾子舞の由来には、いくつかの説がありますが、2つの説が有力です。一つは、今から500年前に、越後の守護職・上杉房能（ふさよし）が、臣下の長尾為影に討たれた際、房能の奥方「綾子」が女谷に落ち延び伝えたという説です。もう一つは「北国武太夫（ほっこくぶだゆう）」という武士が、京都北野神社の巫女「文子（あやこ）」の舞を伝えたという説です。

令和5年1月7日（土）13時開演（12時開場）

日本教育会館 一ツ橋ホール（東京都千代田区一ツ橋）

＜お問い合わせ先＞

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-16-8 GEEKS AKIHABARA4階
一般社団法人全国農協観光協会「考える会」係 ☎03-5297-0321

※「詳細スケジュール」ならびに「申込方法」は、下記のURLまたは
右部のQRコードよりホームページをご覧ください。

《ホームページの開設・申込受付開始は令和4年10月3日（月）から先着順となります》

⇒ <https://www.znk.or.jp/service/event/>



入場無料

＜主 催＞ 一般社団法人全国農協観光協会
＜後 援＞ 農林水産省／文化庁／観光庁／新潟県／千代田区／柏崎市／全国農業協同組合中央会
新潟県農業協同組合中央会／柏崎農業協同組合／一般社団法人柏崎観光協会／
一般財団法人地域伝統芸能活用センター／新潟日報社／株式会社 日本農業新聞
全国民俗芸能保存振興市町村連盟／公益社団法人全日本郷土芸能協会／株式会社農協観光

あやこまい 「綾子舞」のご紹介

女性が踊る小歌踊（こうたおどり）と、男性による囃子舞（はやしまい）、狂言（きょうげん）の三つを総称して「綾子舞」と呼びます。現在、高原田と下野の二つの座元が伝承しています。

それぞれの座元で、歌やせりふに違いがあります。公演のときの後幕は、高原田は夫婦岩、下野は家紋のデザインです。

～高原田地区のご紹介～

<小切子踊り>

菅原道真公が九州に流されることになり、都を去る時に、都七条坊門の娘、文（あや）が夢のお告げにより、三条大橋のたもとで菅原道真公を見送って舞った踊りです。都の風景と女心が歌われています。

頭にユライ、その上にきらびやかな天冠（てんがん）を被ります。振袖着物に緋ばかま、白足袋を身に着けます。はかまを足首のところで結ぶのが特徴です。

他の踊りと違い、扇の代わりに綾竹（あやだけ）と呼ばれる装飾された細い竹の棒を持っています。

小切子とはこの綾竹のことです。綾竹を回したり、軽快に打ち鳴らしたりしながら踊ります。



<海老すくい>

殿様が冠者に、明日の来客のご馳走に海老を買ってくるよう命じます。

冠者が代物（だいもつ：お金のこと）を請求しますが、殿様は「代物はない。自分で用意しなさい」と言います。腹を立てた冠者は、殿様をだましてやろうと考えます。途中の狂言小謡・小舞が、ほのぼのとした味わいの良さを添えている能狂言風のものです。

海老すくいは両座元に残っていますが、それぞれの座元でせりふに違いがあります。

～下野地区のご紹介～

<小原木踊り>

京都の大原というところの女性を大原女（おはらめ）と呼んでいました。

大原女が都にいる恋人に会うために、香木を売って歩く様子と恋心を表しています。19種類の扇の手ぶりが美しい踊りです。頭にユライを被り、振袖着物と白足袋を身に着けます。

高原田と違い、はかまははきません。帯をダラリに結び、紅白の帯締めをし、左腰に赤いシゴキ帯を下げて踊ります。

